

令和 7 年度 指定管理施設の管理運営に関する月次評価について

施設所管課名：福祉こども部子育て支援課

1 施設概要

施設名称	中央こども園病児・病後児保育センター
指定管理者名	ル・アンジェ株式会社
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日（5 年間）

2 月次評価

評価月	評価
4 月	1. 成人・小児・乳児への心肺蘇生法や AED 取扱いなど、実技中心の上級救命講習会を受講し、緊急対応力の向上に努めていることを確認した。また、小児看護のスキルアップ研修や、法人内の保育士向け月 1 回の研修・ミーティングも実施し、職員の知識・技術向上が図られていることを確認した。特に 4 月は、病児保育や感染症の流行について研修を実施していた。 また、避難所ボランティアの登録申込や、リサイクル図書への参加、リサイクルボックスの設置検討、絵本の時間など市主催イベントのポスター掲示など、地域活動、環境対策、市イベントの周知などにも積極的に取り組んでおり、人権セミナーや各種研修・講義にも保育業務に支障のない範囲で参加している。毎月 25 日には避難訓練も実施し、防災への取り組みも適切であることを確認した。 2. 4 月の利用実績 ・利用者 病児 延べ 22 人 病後児 延べ 3 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ 0 人 病後児 延べ 0 人 4 月の利用 4 月の利用者は延べ 25 人と、前月までと大きな変化はみられない。インフルエンザの利用者は 1 人に減少し、主に風邪や気管支炎、上気道炎による利用が多い状況。百日咳が流行しているが、利用者数には大きな影響は見られない。
5 月	1. 5 月 28 日には、中央こども園病児・病後児保育センターで防犯訓練（不審者対応訓練）を職員 4 人と病児 2 人（保護者了承済み）で実施したとの報告あり。来月は、すくすくかん施設全体で地震・津波警報を想定

	した垂直避難訓練も予定されていることから、避難訓練の取り組みも適正に行われていることを確認した。 また、防災シャッターのある調理室は周りに物が置かれておらず、整理整頓されていることを確認した。安全面・清潔面から社会福祉協議会による布おもちゃ・布絵本の貸出を活用しており、一週間ごとに入れ替え、利用者に好評とのこと。貸出の周知のため、施設入口にも布絵本や布おもちゃを飾っていた。さらに、児童図書館からのリサイクル図書も活用し、小学生向けの本を増やしたとのこと。以上のことから、適切に管理されていることを確認した。 2. 5月の利用実績 ・利用者 病児 延べ21人 病後児 延べ2人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ2人 病後児 延べ0人 5月の利用 5月の利用者数は延べ23人で、ゴールデンウィーク期間中は利用者が比較的少なかったため、先月と比べ利用者数は2人減少した。また、昨年度の5月（27人）と比べても4人少ない結果となった。利用理由としては、主に気管支炎や上気道炎、胃腸炎が多かったが、おたふくかぜによる利用者もみられた。
6月	1. 6月27日に現地確認を行い、職員の安全管理については、食中毒や感染症予防のため毎月検便を実施しているほか、ストレスチェックや健康診断も毎年1回実施しており、受診率向上に向けて法人全体で衛生委員会を設置し、周知や対応方法の検討を行っていることから、適切に管理されていることを確認した。 また、災害対策については、すくすくかん内の事業者が集まり地震や津波を想定した避難訓練を実施しているほか、自主防災指導員育成講習会に参加し、座学や実技、図上訓練など幅広い防災研修を受けたとの報告あり。さらに、避難所ボランティアの事前登録も行うなど、災害時の体制強化に努めていることも確認した。 2. 6月の利用実績 ・利用者 病児 延べ16人 病後児 延べ1人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ1人 病後児 延べ1人 6月の利用 6月の利用者は延べ17人で、4月（25人）、5月（23人）と比べて少なく、昨年6月（32人）と比べても減少した。例年この時期はRS ウイ

	ルスの利用者が増え始める時期だが、今年はまだRSウイルスの診断はみられない。主な利用理由は上気道炎や咽頭炎で、水疱瘡と診断されたお子さんの利用もみられた。 また、今月は新規利用者からの問い合わせや登録が今年度の中で比較的多かったとの報告あり。今後も利用状況の推移を注視しつつ、引き続き利用者増加に向けた周知に努める。
7月	1. 7月30日に現地確認を行い、こども一人ひとりの健康・生活状況に合わせて安全な保育が行われていることを確認した。特に、食事や薬の時間、要冷蔵薬の有無といった個別の注意事項については、個室入口のホワイトボードに記載し、磁石で重要事項を明示するなど、情報共有が徹底されていた。また、保育を担当する職員が目を離せない場合でも、他の職員が連携して食事や薬の準備を行うなど、事故防止への配慮も見られ、適切に業務が遂行されていた。加えて、市の「おもちゃリユースプロジェクト」に協力し、入口に回収ボックスを設置していることや、中央こども園の回収ボックス利用についても確認済みで、地域資源循環に積極的に貢献していた。さらに、「よこすか・みうら AEDステーション表彰交付章」および AED ステッカーを病児専用入口に掲示し、市民への周知を図っていたことも報告があった。以上のことから、利用者の安全確保および情報発信、地域連携に積極的に取り組んでいることを確認した。 2. 7月の利用実績 ・利用者 病児 延べ 15 人 病後児 延べ 4 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ 1 人 病後児 延べ 0 人 7月の利用 7月の延べ利用者数は、病児が 15 人、病後児が 4 人であった。利用者数は全体的に落ち着いており、特に上旬から下旬にかけて連休があったこともあり、利用が比較的少なかった。この時期に例年多くみられる RS ウイルスによる利用者はおらず、利用の主な理由は、上気道炎、胃腸炎、気管支炎などであった。過去 3 か月と比較すると、4 月は病児 22 人・病後児 3 人、5 月は病児 21 人・病後児 2 人、6 月は病児 16 人・病後児 1 人と推移しており、年間を通じて落ち着いた状況である。今後も利用状況の動向を注視し、引き続き利用者増加に向けた周知に努めていく。
8月	1. 8月29日に現地確認を行い、指定管理者から運営状況を聴取し、協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。 センターでは、法人が作成した「ル・アンジェ保育園 安全・衛生強化

	月間 台風・集中豪雨・津波などの風水害に備えて８・９月自園の防災・避難計画を再確認しよう」の掲示を行い、最近発令された津波警報の際、実際に上層階に病児を避難させた経験から、避難時の課題や改善点について確認し、通常業務マニュアルに加え、避難マニュアルの見直しも進めているとの報告があった。 また、今月は「とびひ」「あせも」「熱中症」について法人内研修を実施し、職員の感染症や健康管理に関するスキル向上にも努めていた。以上のことから、協定書に基づき、安全管理、防災対策、衛生管理などの面からも適切な運営が行われていることを確認した。 ２．８月の利用実績 ・利用者 病児 延べ 17 人 病後児 延べ 1 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ 1 人 病後児 延べ 0 人 ８月の利用 ８月の延べ利用者数は 18 人（病児 17 人、病後児 1 人）であった。毎年この時期は夏休みやお盆が重なるため、利用者が少ない傾向となっている。新規の利用者も時折見られ、市民からの問い合わせもあるが、全体として大きな変化はなかった。昨年 8 月の利用者実績（病児延べ 15 人、病後児 1 人）とほぼ同水準で推移している。主な診断は咽頭炎や上気道炎が多く、急性扁桃炎とアデノウィルス感染症による利用も各 1 人みられた。今後も引き続き、利用動向を注視していく。
９月	１．９月 29 日に現地調査を実施し、指定管理者から運営状況について聴取した。すくすくかん内事業者全体で実施した「すくすくかん防災訓練（広域避難）」には、当センター利用の病児（２歳児）も職員 3 名とともに参加しており、避難訓練の実施記録も作成・職員間で共有されていた。 また、９月はル・アンジェ株式会社主催の研修（インフルエンザ・溶連菌、清潔について）に 2 回参加しているとの報告があった。なお、９月は大きなクレーム等はなく適切に管理されていた。加えて、利用中のお子さんが発作（てんかん）を起こした際、速やかに総合医療センターへ救急搬送し、保護者とも迅速に連絡・対応できていたとの報告があり、適切な運営が行われていることを確認した。 ２．９月の利用実績 ・利用者 病児 延べ 14 人 病後児 延べ 1 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ 0 人 病後児 延べ 0 人

	9月の利用 延べ利用者数は15人（病児14人、病後児1人）で、前月よりやや減少した。主な疾患は上気道炎、気管支炎、咽頭炎、胃腸炎であった。今月は問い合わせは少なかったものの、新規利用者也一定数みられた。令和7年度はこれまで毎月とも病児の利用が多い傾向が続いている。今後も利用状況を注視していきたい。
10月	1. 10月28日に現地確認を行い、指定管理者から運営状況を聴取した。協定書に基づき、適正な運営が行われていることを確認した。 今月は、障がい者就労施設の「ともしびショップ」で職員全員がピンクシャツを購入し、センターでもピンクシャツ運動を実施していた。 また、利用者のいない日には清掃だけでなく、法人主催のスキルアップ研修や病気に関する勉強会（今回は乳幼児突然死症候群や目の疾患など）も定期的に行い、職員の専門性向上と安全な保育環境づくりに努めている。今月は新たに1名の職員が採用され、積極的に研修を受講しているとの報告あり。 さらに、クリーンよこすか市民の会・横須賀市主催のごみ拾いイベントにも参加し、海洋プラスチック問題についての学びや実体験を通じて、地域活動にも意欲的に取り組んでいた。 これらの取り組みから、当センターが安全で開かれた施設運営、保育の質の向上、地域社会との連携に積極的に取り組んでいることを確認した。 2. 10月の利用実績 ・利用者 病児 延べ20人 病後児 延べ1人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ3人 病後児 延べ0人 10月の利用 10月の延べ利用者数は21人（病児20人、病後児1人）で、問い合わせは週2～3回ほど、新規利用者は多少増加したとの報告あり。また、延べ利用日数も前月を多少上回った。主な疾患は上気道炎、気管支炎で、ヘルパンギーナ、水疱瘡などもみられた。世間ではインフルエンザ流行や学級閉鎖のニュースもみられるが、当センターではインフルエンザによる利用はまだみられない。今後も引き続き利用状況や感染症の動向に注意していく。
11月	

12 月	
1 月	
2 月	
3 月	